

第2回湘南地域懇談会

「湘南地域における新しい企業集積の方向」

～ インベスト神奈川を契機に技術開発拠点集積への地域への期待～

10月12日（金）グランドホテル湘南にて約140名が集まった。

冒頭、藤沢市石渡副市長よりご挨拶があり、その後、尾関地域活性化委員長より研究技術開発の集積が湘南各地域にどのような影響を与えるのか？特に新しい地域産業活性化の核としてどのような可能性があるのか？との課題提起がなされた。

【パネルディスカッション】

司会・横浜国立大学大学院・中村教授：湘南地域は、工場、研究所、大学、住宅を揃えた独自の地域を作ってきたが、東京を軸として結びついている。今後、研究所などの進出により地域への波及効果はあるが、県内で循環できる仕組みを作る事が大事である。

1．湘南地域の産業の変遷

田中・藤沢商工会議所副会頭：かつての湘南地域は、商・工・住のバランスが良く、工業集積の基盤が確立されていた。背景には、京浜工業地帯の用地不足と交通インフラが優れていたことが挙げられていた。ところが自動車社会になり、高速道路が全くアクセスできない状況となった。この交通インフラの遅れが工場転出の一つの原因ではないかと思う。いずれにしても、湘南地域というのは事業環境と生活環境に優れており、工業・産業の立地場所として十分資格を揃えている。

2．3社の経営戦略の紹介と今回の投資の狙い

武田薬品工業・杉山プロジェクトリーダー：大阪とつくばの研究所を湘南に統合し、1500名ほどの規模になる。この地を選んだ理由は、都心へのアクセスと素晴らしい自然環境。研究所を集約し、さらに世界の研修センターを目指す。

山武・風戸本部長：伊勢原、茅ヶ崎、東神奈川の技術部門を藤沢に結集し、約2000名の規模となる。開発エンジニアを結集することでコミュニケーションとシナジーを強化し、業務を大幅に短



縮、市場のニーズへ迅速に対応できる。

ペルノックス・谷奥社長：生産と開発が一体となりスピードを上げ、お客様のニーズに応えられるようにと秦野の生産部門、南足柄の開発部門を秦野の本社工場隣の用地に集約。

3．3社の保持技術や技術開発能力、地域の企業・大学との連携、地域集積に必要な環境条件

武田・杉山氏：新研究所では、色々な領域において大学やベンチャー企業と連携が可能である。都心に近いこともあり、大阪よりも多くの企業との連携を考えている。研究者の交流の場を作って戴けたらと思う。

山武・風戸氏：これまでも地域の企業や大学とも連携をしているが、技術部門が集結したことにより、より先端的な技術開発とともに研究開発のスピードアップをしていきたい、その為には企業・産学連携をより密にしていく仕組が重要。

ペルノックス・谷奥氏：今後は、「神奈川 R&D ネットワーク構想」にも参画し、先端開発型企業との技術交流にも期待している。当社の研究者の多くが神奈川県内の大学出身であり、今も母校との繋がりも深く、今後も共同開発は広げていきたい。

4．地域社会・地域経済の各方面にわたる期待と可能性

田中副会頭：県内にある全国有数の研究開発施設や研究者と「神奈川 R&D ネットワーク構想」をどう使っていくかということが一番求められること

であり期待することでもある。その他にも交通インフラの促進、そして一層の生活環境の充実を期待したい。

武田・杉山氏：新しい研究所での施設・敷地管理、社員の食事や家族含めて（約 4000 名）の大移動となる為、移転に際し支援もお願いしたい。

山武・風戸氏：環境・省エネや障害者雇用といった地域の抱えている課題について一緒に取り組んでいきたい。

ペルノックス・谷奥氏：交通アクセスの便を良くする為に、さがみ縦貫道、第 2 東名、246 号線のバイパス等の完成を望んでいる。

代表質問 県産業技術センター・馬来所長

Q：神奈川でも中小企業とのコラボレーションを今からできると良いが？ A：全てお話をお聞きして検討したいと思う。（杉山氏）

藤沢市経済部長・花上氏

Q：商業系の店舗で貢献できることは？ A：室内環境・エネルギー・セキュリティーの 3 つの側面で貢献できると思う。（風戸氏）

協同油脂・土屋専務取締役

Q：共同研究でより良い成果をあげるには？ A：

業種が違いますが、テーマの焦点を絞った研究開発を行う。（杉山氏） Q：開発部隊と製造部隊が離れてしまったので何か良いアドバイスを？

A：通信手段を上手く活用することでデメリットをカバーできるのではないかと思う。（谷奥氏）

日大産官学連携知財センター・金澤副センター長

Q：地元湘南地域の大学にどのような事を期待しているのか？ A：お互い積極的な密な産官学連携を期待したい。（田中氏）

中村氏からまとめとして、企業間、大学・企業間の連携は待ちでなく、一步踏み込むことが必須である。最後に、高橋経営者協会会長から湘南ブランドに新しい息吹きを与えることを確信したと閉会の挨拶をされた。

その後、70 名が交流パーティーに参加し、藤沢商工会議所塩田会頭のご挨拶、関電工・神奈川支店村野支店長の乾杯、横浜ゴム・及川製造所長代理の閉会ご挨拶で締め括られた。